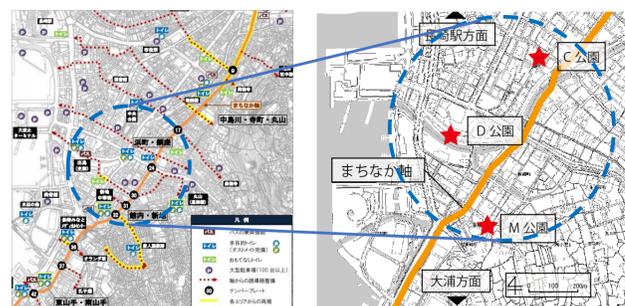


1. 背景・目的・方法

- 背景と目的
・ 新型コロナの影響で東京都の公園利用が前年に比べて増加した
・ 歩行空間と公共空間を組み合わせる施策の必要性が指摘された
・ テイクアウトや路上客席等の新しい使い方が提案された
・ コロナ禍は公共空間の使われ方を見直す機会であり公共空間の質的向上により一層求められている
・ 公共空間の質的向上を検討する基礎的知見を得ることを目指し公共空間の代表である都市公園に着目しその利用実態調査に基づき空間的特徴との関係性を考察することを目的とする
● 既往研究と研究の位置づけ
・ 大塚芳高, 岩崎寛: 都市緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理と満足度・印象評価に関する研究, 日本造園学会誌, Vol.38, No.1, pp.127-129, 2012
・ 篠崎高志: 都市の屋外公共空間における滞留行動に対する人的要素の影響に関する研究, ランドスケープ研究, 日本造園学会誌, Vol.65, No.5, pp.701-706, 2002
・ 長坂一郎, 本江正茂: ランドスケープ・ダイアグラムを用いたユーザ行為の多様性と空間特性の分析, 設計工学・システム部門講演会, 講演論文集, Vol.21, pp.160-165, 2011
・ 沼田真也: 新型コロナウイルスのパンデミックが人々の活動に与えた影響: 2020年3-5月の行動制限下における公園利用, グリーン・エージ, Vol.47, No.6, pp.26-29, 2020

● 対象とする公園



● 調査方法

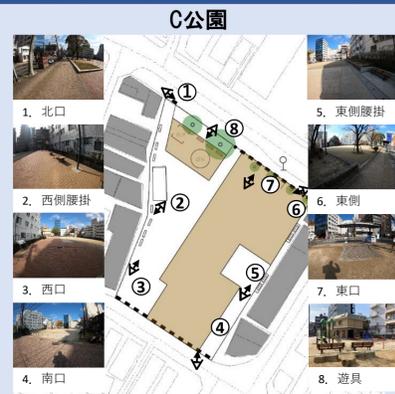
- 日時
C公園: 2020年11月 8日(休日), 12日(平日)
D公園: 2020年11月 18日(平日), 21日(休日)
M公園: 2020年11月 23日(休日), 25日(平日)
7時~18時まで(休憩1時間)
2時間ごとに公園内で利用行動を観察し各公園の平面図に利用者の軌跡と行動の種類を記入する

- ・ 今回「まちぶらプロジェクト」(長崎市のまちなか軸と呼ばれる新大工・東山手間の道を整備し市内の回遊性を促す計画)を参考にし
・ まちなか軸に近接し, かつ異なる空間的特徴を有している中央公園(以下, C公園) 出島表門橋公園(以下, D公園) 湊公園(以下, M公園)を選定
・ 今回今後の市内での歩行者の回遊行動の分析に展開することも視野に入れており, まずは「点」としての公園に的を絞り初歩の検討をおこなった



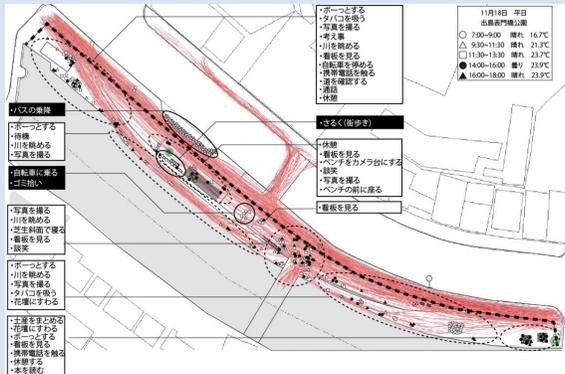
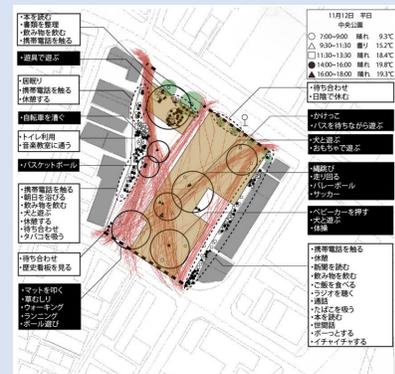
本研究はこの流れに位置するものの, 具体的な公園の中で緻密に行動を分析している点でこれまでの研究とは一線を画すものとする

2. 結果(空間的特徴と通過行動の軌跡の関係)



静的行動がC公園で7割, D, M公園で9割を占めた 平日における利用行動の内訳

Table showing the breakdown of user activities in C, D, and M parks on weekdays. C Park: 静的 74%, 動的 26%. D Park: 静的 90%, 動的 10%. M Park: 静的 93%, 動的 7%.



休日における利用行動の内訳

Table showing the breakdown of user activities in C, D, and M parks on weekends. C Park: 静的 59%, 動的 41%. D Park: 静的 89%, 動的 11%. M Park: 静的 89%, 動的 11%.

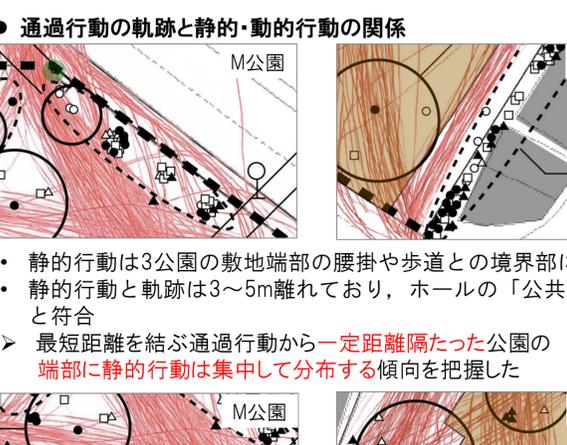
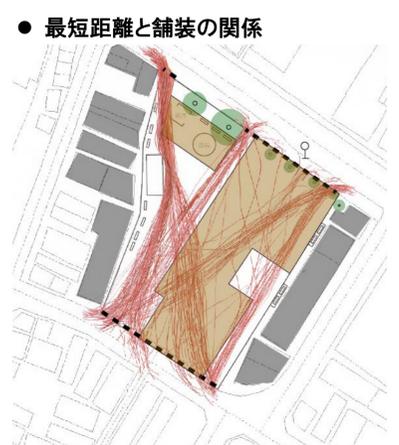
- ・ 敷地と歩道との通過可能な境界が一部分に限られていた
・ 利用者のほとんどが最短距離で通過
➢ 一部空白が残る軌跡が描かれた

- ・ 東西方向に伸びた敷地を有し, 敷地と歩道との境界が判別できなかった
・ 利用者が公園と歩道を区別せずに通過
・ 4人に1人は河川に近い空間を通過
➢ 全体に満遍なく軌跡が描かれた

- ・ 敷地と歩道との通過可能な境界が一部分に限られていた
・ 利用者のほとんどが最短距離で通過
➢ 一部空白が残る軌跡が描かれた

3. 総合的考察

- 考察の分析視点
・ エドワード・ホルの「公共距離」(3.70m以上): 公共空間における人と他者の最低限必要な距離
【参考】
「密接距離」(0~0.45m): 強い感情のやり取りを行う
「個体距離」(0.45~1.2m): 親しい友人や家族間の触れ合いを行う
「社会距離」(1.2~3.7m): 仕事や雑談等の情報交換が行われる
・ ヤン・ゲールの「最短距離」: 歩行者は最短距離に沿って進路を修正
・ ヤン・ゲールの「座るのに適した場所」: 座るのに適した場所は背後に壁や木々が存在し視線を受けない



- ・ C公園の通過行動は, 舗装された場所でも, 土のグラウンドでも, 確認された
・ ゲールの「最短距離」を確認
➢ 通過行動は舗装面に依らず, 最短距離を通過

- ・ 静的行動は3公園の敷地端部の腰掛や歩道との境界部に分布
・ 静的行動と軌跡は3~5m離れており, ホールの「公共距離」と符合
➢ 最短距離を結ぶ通過行動から一定距離隔たった公園の端部に静的行動は集中して分布する傾向を把握した

- ・ 動的行動はC, M公園で, 中央部かつ平坦な場で分散して展開
・ 動的行動の位置と軌跡は大部分で重なった
➢ 動的行動は通過行動とは無関係に展開する

- ・ D, M公園では特徴的な利用を把握
・ ゲールの「座るのに適した場所, ホールの「公共距離」を確認
➢ 端部の腰掛以外にも「ちょっとした個人利用のできる空間」が寄与

4. 結論

- 異なる空間的特徴をもつ都市公園の利用実態を把握し図化したこと
□ 通過・静的・動的行動の割合を計数し, 傾向について把握したこと
□ 計画・設計の要点として「公共距離」と「座るのに適した場所」を考慮した個人利用できる空間を適宜配置することで公共空間の居心地が向上する可能性を示唆したこと

【参考文献】 国土交通省都市局: 新型コロナを契機としたまちづくり, オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性, https://www.mlit.go.jp/toshi/machi/covid-19.html. (2021年1月31日確認)
国土交通省道路局: 新型コロナウイルス感染症の影響に対処するための沿道飲食店等の路上利用に伴う道路占用の取扱いについて, https://www.mlit.go.jp/report/press/road01\_hh\_001324.html. (2021年1月31日確認)
長崎まちづくり部: まちぶらプロジェクト, https://www.city.nagasaki.lg.jp/sumai/660000/666000/p024188.html. (2021年1月31日確認)